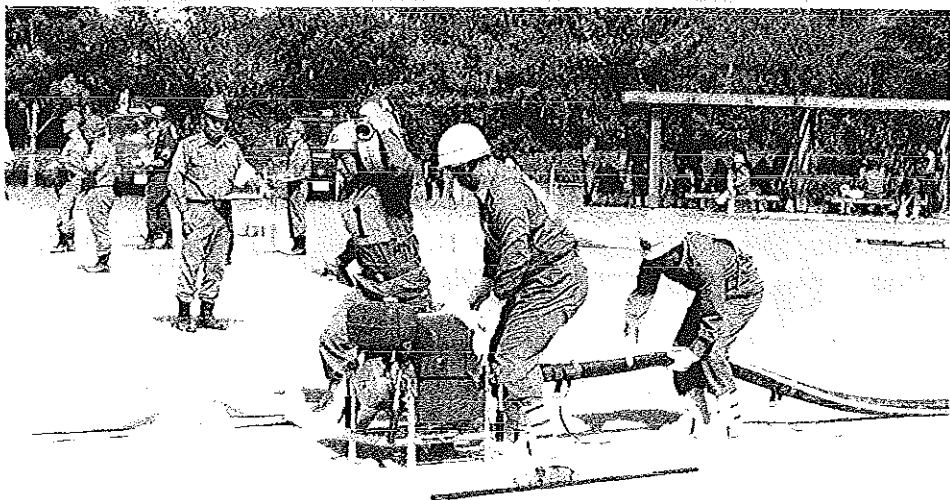
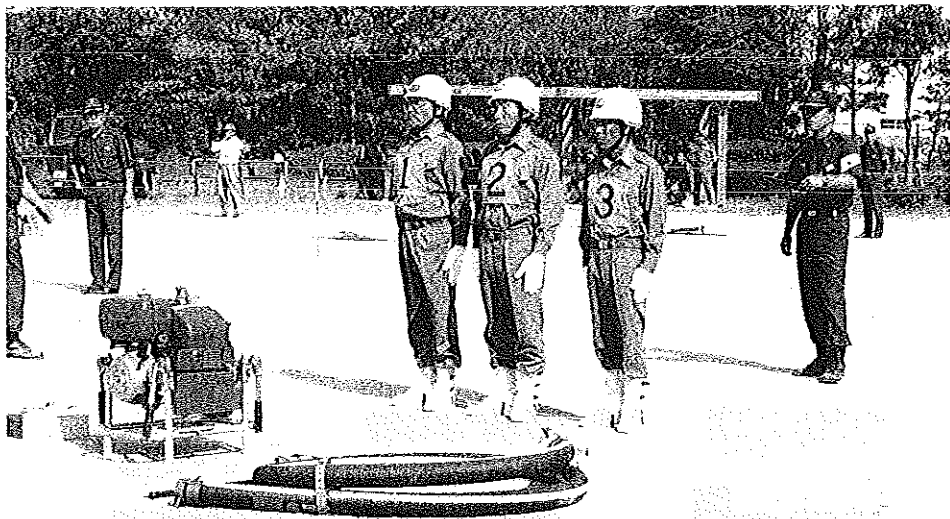


消防操法大会

……火点は前方の標的、水利はポンプ右側後方貯水槽、手びろめによる二重巻きホース一線延長…定位につけ…凜とした指揮者の号令に合わせて四人一組の隊員がぎびぎびとした動作で小型ポンプの操作を始めました。仲間の団員見守る中、手順どおりに操法が終了すると、会場から温かいねぎらいの拍手が送られました。

これは8月30日(日)周陽公園で開催された消防操法大会での一コマです。

酷暑の中、馬島・大津消防分団の選手はこの大会に向け、分団の応援を受けながら猛訓練に励みその成果を発揮したわけです。



山崎八幡宮秋季例大祭齋行

今年の山崎八幡宮秋季例大祭齋行の御正祭が9月27日(日)に行われ、その中の本山神事羯鼓奉納当番を大津島・黒髪島、野島の2組でつとめることになっています。氏子の皆様方のご協力をお願いいたします。

※羯鼓(かんこ)奉納(行列)順位(○は人員)、諸役8名

○ - ○ - ○ - ○ ○ - ○ ○ - ○ - ○ ○

太鼓 塩汲 幟 御神饌 花籠(稚児2名) 大傘 両親(随行)

※稚児…各当番地区の7歳・5歳・3歳の男子の内から各1名づつが奉仕する。

☆本山神事の由来(新南陽市指定民俗文化財)

富田祭りとして広く知られている秋の本山神事は元禄年間、徳山藩三代藩主毛利元次公が五穀豊穡を祈願して山崎八幡宮に奉納した御祈願神事の本山と二つの山車(だし)が中心になっています。

通常神社の秋祭りは農作物の豊かな実りを神様に感謝するお祭りですが、この神事は秋に作物や稲穂が実った後に起こる自然の災害(台風・鳥害・虫害など)を防ぎ、五穀豊穡を神様に祈願するための“予祝神事”です。この神事では、十日前の八朔(旧暦8月1日)に神事始祭が行われ、羯鼓の童子二人が社参してお祓いを受け祭礼の無事を祈ります。山車の組立には釘などの金具は一切使われず、丸木を約百二十貫(450kg)のカズラで結んで作り、車輪も松の輪切りを使うなど、日本古来の建築方法で組み立てられています。

山車は裸坊によって先ず爺婆山を神社の坂へ引き上げ、次に本山を引き上げる。

本山には羯鼓(神子)と舞人・台振り・太鼓・笛などの人々が乗り、祈願と踊りがあり、最後に紙で作った桜花を蒔いて花鎮めを行って坂から山車を落とします。

豊作を祈願する、全国でも数少ない神事です。

山崎八幡宮大津島地区宮総代 石田 望

大津島中学校「資源ゴミ回収」のお礼

去る8月21日に実施いたしました「資源ゴミ回収」では、島民の皆様の心温まるご協力によりまして、大型トラック2台分の資源ゴミと1,500本もの瓶を回収することができました。

早くから資源ゴミを準備していただきました方や前日に回収のお手伝いをしてくださった方など、多くの方々に大変なご迷惑をおかけいたしました。このような回収活動を通して、皆様方の温かいご厚意を一層強く感じることができました。本当にご協力ありがとうございました。